

常新新聞

三月十一日 夕刊

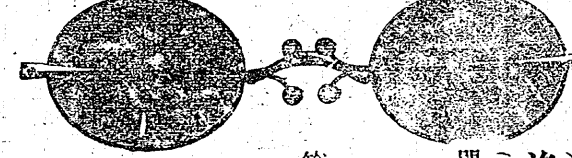
發行兼編輯人 川崎文治
印刷所 常陸毎日新聞社

定部金貳錢
郵税五厘
廣告費 五字一十二行
五字一十二行
日刊休
日祝日ノ登
印刷所 常陸毎日新聞社

渡邊藥局

劑調方處
品藥料染

日丁三町平
郎五政邊渡
(向局便郵)



逸獨 高級眼鏡

(メニスカス) 高
間「メニスレ」
ンズを何ん
で皆さんが
お好みにな
るのです
答「掛け心地
が良くて眼
や脳へは絶
對弊害がな
く晴々する
からです」

警店眼鏡部は各國品多數取揃へ
電力應用で速時調整します

平町一丁目
常盤屋
時計店
電話三三九番

家賃

平町白銀町
加藤營業所
電話三三番
五丁目 地所付賣家
舊城跡、本丸、二ノ丸

△柳士向町	十五圓
△仲店向町	十二圓
△湯間屋	廿五圓
△白銀町	卅圓

常盤論壇

純國粹的の運動を起せ

何故に外字を使用する
法學博士 上杉慎吉氏談

(一)

我國民は物質文明の心酔者となつたのか何事を行ふにも外國文字を使用し、甚だしき者に至つては自己の名刺にも外國文字を使用する者さへあるのである、かくの如き惡傾向を呈しつゝあるも何等これに對する考へのなき状態にある、これは要するに、從來の爲政者の考へが既に悪化されて居る

牛ハ利用厚生ノ權化ナリ

馬千里ナレバ牛亦千里
乳ハ保健食物ノ第一位
肉ハ滋養物中天下無比
一毛一皮人類ヲ裨益スル莫大
牛ヲシテ社會ニ貢獻セシムルハ

三一一三屋
電話三二二三番

平陽女學校

願書提出 三月十日迄

私立 平陽女學校
校舍新築 規則書二錢ヲ要ス
平町搦槌小路四四番電話

外科内科 平町鎌田町
産婦人科 金成醫院
花柳病科 金成忠義
電話三五八番

産婆、看護婦生徒募集

修業年限 産婆看護婦兩科を通じ滿一ケ年
願書提出 四月八日迄

平町一丁目
石城 看護婦學校
電話三五七番

勇猛院葬儀の際には遠路の處御會葬被成
下且御町重なる御香奠を賜はり御厚志
の段難有奉拜謝候一々拜趨御禮可申上
處乍略儀以紙上御厚禮申上候 敬具
大正十四年三月十二日
嗣子 酒井 井清
親戚 酒井 喜七
總代 青天目源一郎

結果より誘導されたる傾向である、例を擧ぐれば我が帝國の表象とも云ふべき、印紙切手、兌換紙幣はがきを始め電車汽車汽船等の中に英語を使用されて居るが我國は英國の屬國ではない苟くも大和民族を背景として立てる獨立國である、然るに政府自ら今尙かくの如き状態にあるを默視しつゝあるは、甚だ心外であり當局にして眞に國家を信望する誠意あるやを疑はざるを得ない事になる、故に爲政者を始め國民一般は一日も早くこの誤れる慣習を打破し、以つて純然たる國家の建設に努めたいものである

遠藤パン

喰べて たいしい
(有聲座隣)

染色 保儉
染物ト刺子
全 相屋漆物店

米松

確信アル値段
米松(セメント)各種
建物請負一般木村業
磐城建物株式會社
平町五丁目(電話五二八番)

大谷洋品部

帽子 子カバ
安ノイガ澤山揃ヒマシ
十五錢ヨリ色々
大谷洋品部

大谷時計店
平町三丁目 電話一九番

是非

粹上物品履
御求めの際
井三井物店
平町二丁目電話五番

一冊の代金で五冊の雑誌が自由で読める

御希望通りな
五冊の雑誌が
自由で読める
平町長橋町三五
川崎同文庫
(申込次第規則書進呈)

丸登株式

平町四丁目 電話三二二三番
川添房二郎

株式賣買中値

電話に金融致し

磐城銀行	五〇〇	五三・五
平銀行	五〇〇	六八・〇
同 新	五〇〇	四・三
同 權利	一一・五	一〇・五
磐城實業	五〇〇	四二・〇
磐城實新	三〇〇	二八・〇
田村實銀	一一・五	一一・五
四倉銀行	一七・五	一七・五
農工銀行	二〇〇	二五・〇
同 新	一五・〇	一九・〇
同 權利	五〇〇	五二・五
百七銀行	一一・五	一四・五
同 新	一一・五	九・八
七七銀行	五〇〇	四七・〇
郡山電氣	二五・〇	二二・五
同 新	二五・〇	七・五
只見川電	一一・五	一六・五
植田水電	一一・五	一五・〇
二本松電	一一・五	六・〇
磐城製菓	二〇〇	二・五
同 權利	五〇〇	二〇・〇
磐城製菓	一一・五	一三・五
植田物産	三〇〇	二六・五
平製水	二五・〇	一八・〇
好間軌道	五〇〇	二五・〇
入山新	二二・五	一七・〇
小田炭礦	二五・〇	七・〇
磐城炭礦	五〇〇	四一・〇
同 新	二二・五	一八・〇
同 權利	五〇〇	六三・五
同 新	三三・〇	四三・〇
平運送	一一・五	六・五

昨日の青年總集會 低劣な野次で埋る

果して何もの、感化を 幹部の眉宇に深い八の字

十日平劇場に開かれた石城郡第三方面青年團總會に於て詔書及令旨奉讀、團長の告辭などが済んで會員の演説に移るべきの程から待ち構へた各村の團員は自村の

選手を 應援歡呼す

るはさることながら他村選手に對する四方八方の野次で一二を除き辯士の大多數が悉く立往生せねばならぬ程場内は蜂の集をついた様な

混亂を 呈したるも

騒ぎは擊劍の試合に至つて

聽衆の無禮極る行動に 上杉博士が講演を中止

言語に絶せる不謹慎さ

平方面聯合青年團總會に於ける參集者の醜狀は前項のみに止らない、即ち上杉博士の

講演前

に當り會我會長から聽衆に向つて脱帽を促したるに對し「眼鏡も外すか」とマゼツ返す者があつたばかりでなく博士の講演が結論に這入らうとした際一名の會衆は如何にも退屈氣なアクビの音を殊更ら大きく立て、滿場を失笑せしめた失禮さ加減に流石博士も 耐り兼ね

行動で

あるを以つて相當の處置を構すべく力説し輕佻浮薄な青年の傾向を慨嘆する者が多い

三丁目衛生係

平町三丁目衛生係長及び世話係滿期改選の結果左の如く決定した

(衛生區長關内榮助(世話係)三井富吉、伊藤彌兵衛、鈴木菊太郎、川又章次

平兩小學校の

銀婚式記念

ピアノを購入

平第一、第二兩小學校にては既記の如く五月十日の今上陛下銀婚式記念の爲め四千五百圓を以つてピアノ二

平銀行の公募株

申込み約三倍に達す

割増金の最高五圓卅錢 昨日締切りの結果

平銀行が一躍百五十萬圓に増資し一層其基礎を強固にせんが爲め九千五百株を一般公募に附した事は屢報の如くであるが昨日を以つて締切つた結果を聞くに其

申込株數

二萬五千以上及び更に未報告の各支店取扱へに係る申込を合する時は二萬九千株優に三倍に及ぶの盛況にて人員は六百七八十人を算し何れも堅實な顔ぶれが多い處に

嚴談を申込む

白銀の小火で



庭家 花壇の土は今から手入れ

外氣は寒くても地熱は大變暖かになりました。そのため陽當りのよい地面には草

の芽がポツ／＼ともわ出て居ります。春の園藝はこれから忙しくなるのです、先づ花壇や花園を作るには今頃から土の手入れをせねばなりません。地面には栽培植物よりも野生の方が元氣がよいので根をはびこらせます。その爲に除草は何より大切で、次に土のよ

平町白銀町十四高橋萬助方の芽がポツ／＼ともわ出て居ります。春の園藝はこれから忙しくなるのです、先づ花壇や花園を作るには今頃から土の手入れをせねばなりません。地面には栽培植物よりも野生の方が元氣がよいので根をはびこらせます。その爲に除草は何より大切で、次に土のよ

常磐片々

昨日の青年總集會の暴狀言語に絶す、お話しにならぬ次第也

總集會は一種の暇ツプシ的無意味な會合に終つたのみならず恥を天下に表明す

然るに何んぞ主催當局は此事に對する處置を構する處なく漫然餘興の活動寫眞にオトガヒを解く

此主催者にして此聽衆ありよく出來たものなり、ウタ、感涙にせせふ

舊城跡の 小便鐘を廢し

電氣仕掛けに

平町舊城跡高臺鐘撞き堂は火災その他不時の場合の警鐘に備へる一方時間を報ずる事となつて居るが正確を期し難き爲め案外効果も薄く町民の期待を裏切るやうな事が度々あり現在では

「小便鐘」など、唱へて撞く鐘に對し眞面目に耳を傾けるものも少いやうな有様であるコンナ事では折角經費をかけても無益であるからと撤廢論者も弗々あらはれて來たやうだが聞く處によると平署では消防組と協力

台を購入する外兒童文庫を設置すべく決し其費用は卒業生よりの寄附に據る事とし來月頃より寄附募集を開始すると

伏見町長披露

伏見町長の就任披露會は昨夜六時から谷口樓上に開かれ伏見氏の挨拶、來賓總代白非監督判事、祝辭あつて宴に移り、賓歡を盡して頗る盛況を呈した

漁船が轉覆

死體一名發見

石城郡小名濱町字竹町鈴木久吉は所有船に同僚數名を乗せ九日午前九時頃二十湮の沖で轉覆し行衛不明となつたが小野秀吉(三)は十日死體となつて居たのを發見した

行商の老人 歩行に悩み

旅先まで倒る

茨城縣多賀郡本村生れ小間物行商大友政次郎(七)は七日午後六時頃石城郡川前村下桶賣地内を小間物行商中老衰の爲め歩行に困難を來し同村長谷川熊太郎方に救ひを求めたので同家にて保護を加へつゝあつたが病勢益々加はり所持金なく九日午後一時行路病者として村役場に引渡した由

平町人事

出生

- △田町五 堀川三郎氏二男和郎
- △研町二 猪狩作次郎氏長男善一
- △久保町三七 秋山龜次郎氏二女米子
- △久保町三七 酒井國太郎氏四男平子
- △五丁目一六 田中繁雄氏長女富美子
- △南町七一 八木政吉氏長女操

婚姻

- △一丁目三 活版業高瀬市太郎氏
- (四五) 栃木縣烏山町鈴木ノイ
- (三四)

死亡

- △五丁目一四 獨居サク(六三)
- △四丁目三六 當時東京市淺草區元鳥越町加藤美智子(一一)

飲料水枯る

江名濱の困難

濱通り一帯は平常でさへ一般に飯料水の湧出量が少なく不便を感じて居るのに近來打續く晴天に各濱は飲料水の枯渇する井戸さへあり江名濱の仲の作折戸附近の如きは是れが爲め廿數町を遠方に行つて漸く水汲みを爲す状態にて殆んど困難を

營業稅の調査

平稅務署營業稅調査委員會は十日午前十時半開會會長に永山和平氏を擧げ調査に着手したが會期は廿日開である

マツチ箱一定

石城郡江名町仲の作では火防上マツチ入箱を一定し各戸に備へ付けしめた

平窪檢閱協議

石城郡平窪消防組にては十二日午後六時から幹部會を開き春季消防檢閱及び消防協會費納入其他を協議した

村有林の枝拂

石城郡江名町字仲の作にては區

長吉田大次郎氏が先頭となり此程村有林全部の枝拂ひを爲した